

第32回サマーセミナー参加報告

芦 原 聰

(東京大学生産技術研究所)

澄んだ空気に青々とした諏訪湖。長野県は諏訪の好環境下で8月20日から3日間にわたり、日本光学会主催の第32回サマーセミナーが開催された。4年ぶりの開催となつたが、以前と同じ会場、諏訪大社秋宮境内のホテル山王閣に、計51名の参加者が集まつた。プログラムは表1に示す通りで、8つの講義と懇親会、イブニングセッションで構成された。

講義内容は、今回のサブタイトル「光科学と光工学の過去・現在・未来」の通り、非常に広範囲にわたるものであった。筆者にとっては、今まで著書等でお名前しか知らなかつた先生方の、生の講義を聞く機会に恵まれたのは大きな喜びであった。少し振り返ると、霜田先生の誘導放出の解説や、光が量子力学の発展に寄与してきた経緯のお話、また、辻内先生のホログラフィーの歴史をご自身の研究と共に振り返られたお話は印象的だった。河田先生の講義された、エバネセント場の多彩な応用や、江馬先生の超短光パルスの時間分解分光応用も、これから広がりを感じられて興味深かった。全体的にチュートリアル形式にしていただいたおかげで、予備知識のない講義にも積極的に取り組めたと思う。そしてどの講義においても活発に質問・討

論が交わされた。

懇親会やイブニングセッションは、気軽に全体が交流できる場となつた。特に後者は、風呂上がりにビールを飲みながら、というリラックスムードで行われたが(写真)、意外なほど白熱した討論会となつた。これ以外の場面でも3日間寝食を共にした中で、年代・所属を超えて親密にお話をすることができた。

さて、本セミナーを通じて光科学・光技術のスピーディーで多様な発展には改めて驚きを感じた。今後の進展については、霜田先生が冗談めいて言われた通り、「それが簡単にわかればAINシュタインよりも偉い」のかもしれない。すると、知識・経験を伝授していただくため、また新アイデア創出のきっかけを作るために本セミナーのような機会は重要なのだろう。堅い話は抜きにしても、合宿を通して諏訪湖の景色や夜空の星を満喫し、また何といつても所属を超えて交流する機会に恵まれたので、初参加の筆者にとっては楽しい3日間であった。

最後に、今回お忙しい中ご準備、ご指導くださつた実行委員の皆様、講師の先生方に深く感謝いたします。

表1 第32回サマーセミナーのプログラム。(敬称略)

8月20日(木)
レーザー物理と今後の進展(霜田光一)
ホログラフィ 50年(辻内順平)
懇親会
8月21日(金)
近接場光学の現状と将来(河田聰)
低損失プラスティックファイバーの開発(小池康博)
X線光学系と光学素子(青木貞雄)
イブニングセッション(谷口正樹・中野隆志・津村徳道)
8月22日(土)
マイクロマシンと光技術(羽根一博)
超短光パルスの発生と応用(江馬一弘)



イブニングセッションの講義風景。